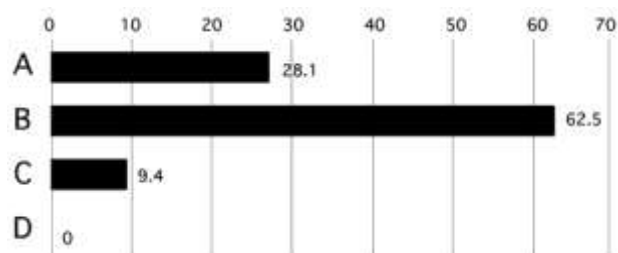


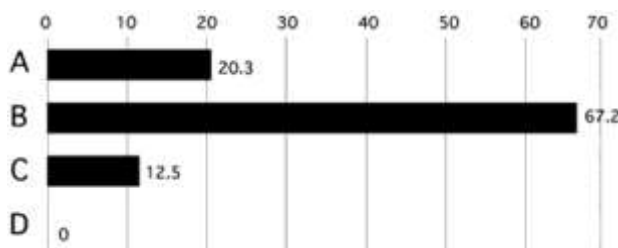
令和 7 年度 学校評価アンケート（教員用） アンケート集計

自己評価の 評価基準	A	よくできた。 十分達成している。	目標に対して具体的な方策が順調に進行しており、 当初の成果が得られていると判断される。
	B	できた。 おおむね達成している。	目標に対して共通理解をもち、具体的方策の実行 に着手しつつある。
	C	あまりできなかった。 あまり達成されていない。	目標に対する方向性はあるが、共通理解が十分で なく、全体的に停滞している。
	D	できなかった。ほとんど 達成されていない。	現状に満足して、問題意識がない。 問題意識はあっても手つかずの状態である。

1. 保護者、関係機関、地域社会に対して、本校の取組等に関する効果的な情報発信ができたか。



2. 保護者、関係機関、地域社会から、本校の取組等に関する意見等を収集できたか。



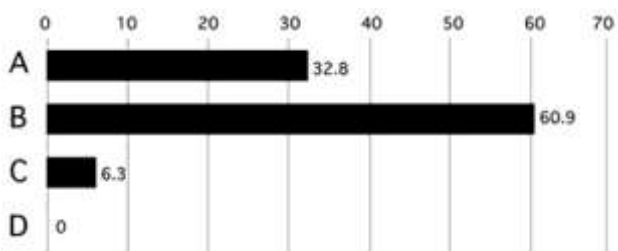
3. 収集した意見を共有し、教育活動に生かすことができたか。



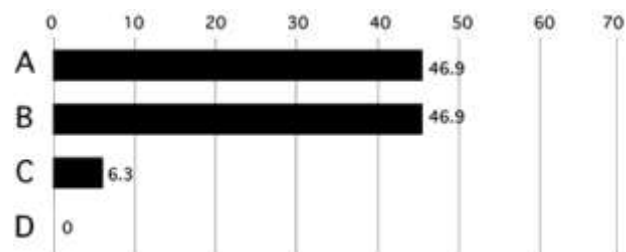
4. 授業改善等に向けて協議し、実践を通して子どもの学びに変容がみられたか。



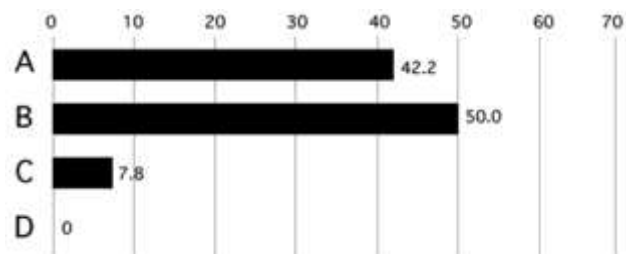
5. 研究・実践をととして、知的障害・肢体不自由教育・病弱教育の専門性向上が図られたか。



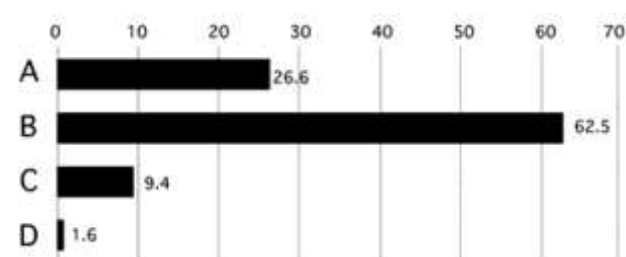
6. 資質向上に向け、計画的な研修体制が整えられたか。



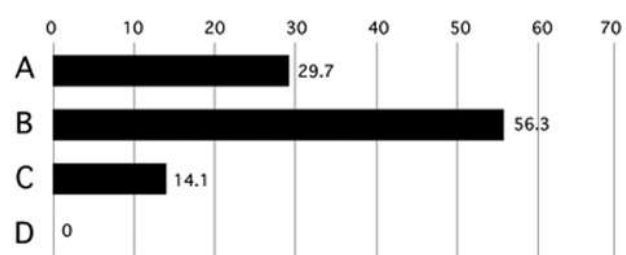
7. 勤務時間の適正化を念頭に、従事時間を見直す雰囲気が醸成されたか。



8. 教材や資料の共有化に向けた取組みが推進されたか。

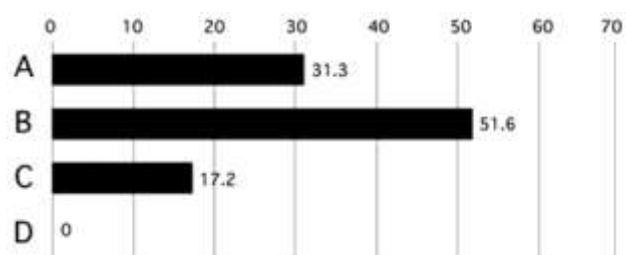


9. 働きがいのある職場づくりへの改善意識の向上がみられたか。

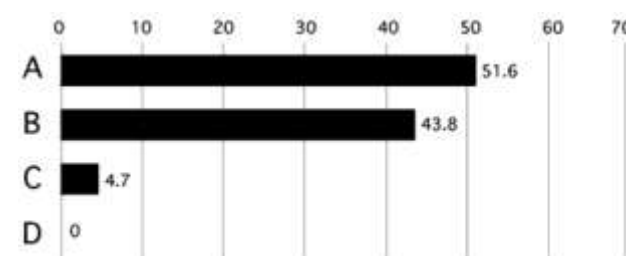


10. 校内行事の見直し等、業務の精選が行われたか。

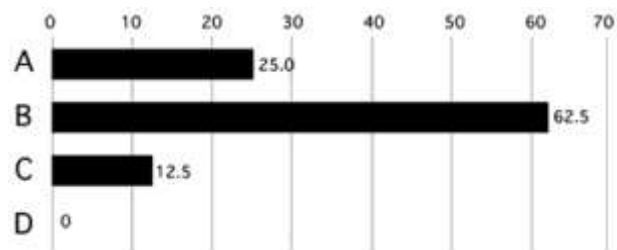
➡交流に関する見直しを行い、検討する。
行事のねらい等を丁寧に説明し、日常的な学習の延長線上に位置づけた学習計画にする。
進路関連行事の適切な時期や実施内容について見直し等を行う。進路関係の事務作業の見直しを行う。



11. 「情報資産の分類と管理」をもとに、個人情報流失防止に向けた体制づくりが組織として高まったか。

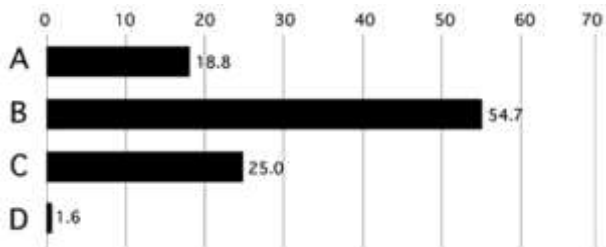


12. 予測しえない災害等に柔軟に対応することができるか。

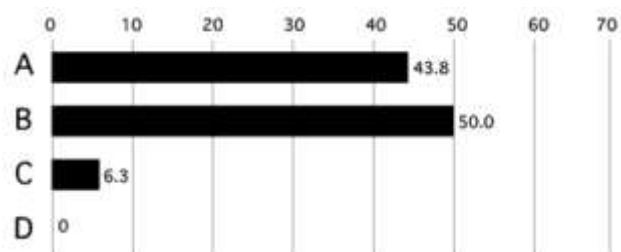


13. 本校が抱える課題への対策を推進したか。

➡各校務部、各学部では事後アンケートをもとにPDCA サイクルで改善を行っている。
学校課題については職員会議等で共通理解を図り、協働して取り組む意識を高める。
(学校としての評価でなく、教員の個人評価の可能性も考えられる)



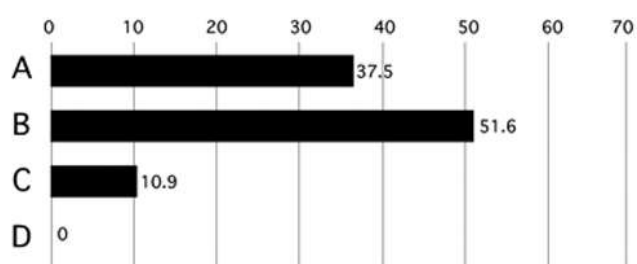
14. 教育相談や外部専門家による巡回相談を企画し、幼児児童生徒や保護者等に案内を行ったか。



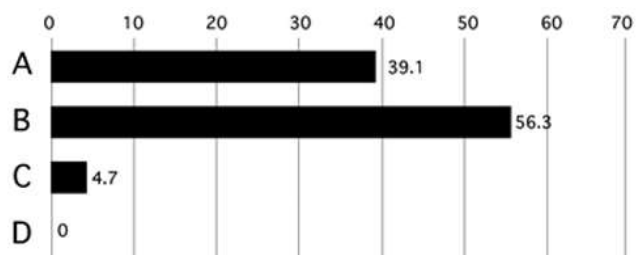
15. 幼児児童生徒や保護者等の相談ニーズに応えることができたか。



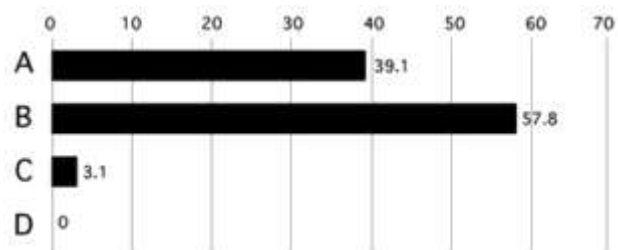
16. クラスや学年の困りごと等に関して、コーディネーターを含めた複数人で改善に向けて話し合うことができたか。



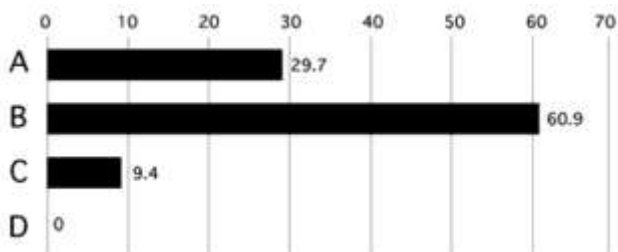
17. 個に応じた個別の指導計画を作成し、指導の充実に活用したか。



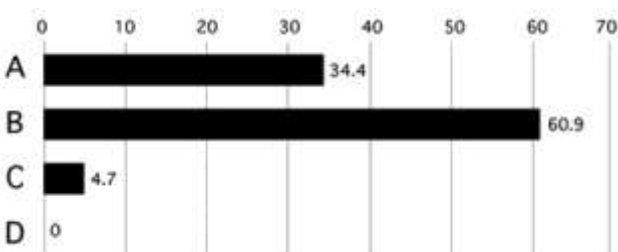
18. 指導目標、方法、指導内容を子どもの状況に応じて修正・改善できたか。



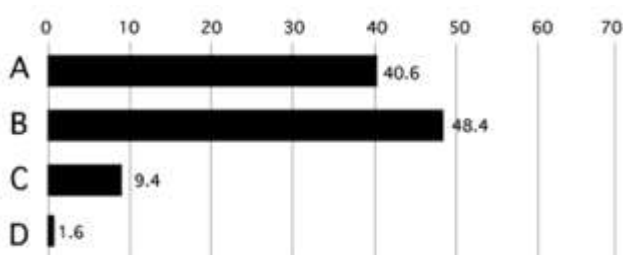
19. 個別の指導計画の評価に基づいて引継ぎが十分に行われたか。



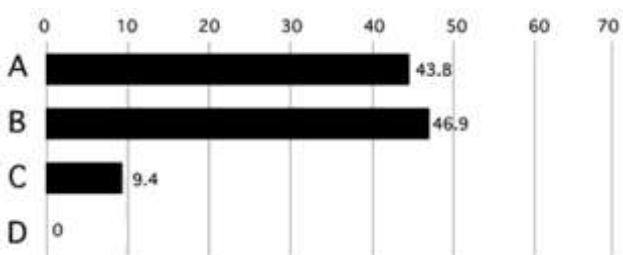
20. 新学習指導要領における3観点「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」に基づく学習評価の改善意識が共有されたか。



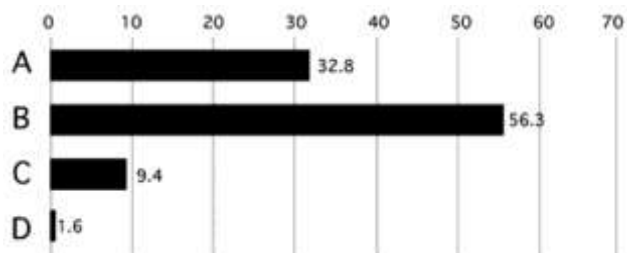
21. 各学部・分教室で、それぞれの子どもに対応する類型が適切であったか。



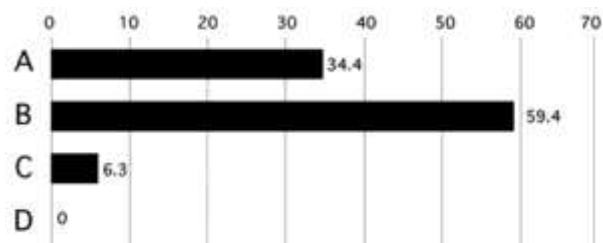
22. それぞれの子どもたちの類型・教育課程に基づいて指導できたか。



23. 研修等により、教育課程への理解力が高まったか。



24. 学校内や学校と地域・家庭及び関係諸機関との連携が進められたか。



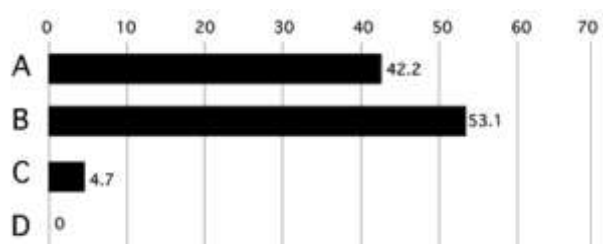
25. 卒業後や次の学部（学年）での生活も意識した支援方法等を検討することができたか。



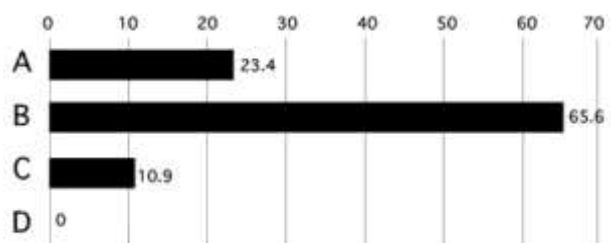
26. 子どもの活躍の場を設定し自立につなげ、社会性が育成できるような、学校行事や学部行事、生徒会活動や委員会活動となっているか。



27. 協力して仕事をさせる等、仲間づくりを意識した指導の工夫がなされているか。



28. 企画立案にあたり、工夫改善が見られたか。



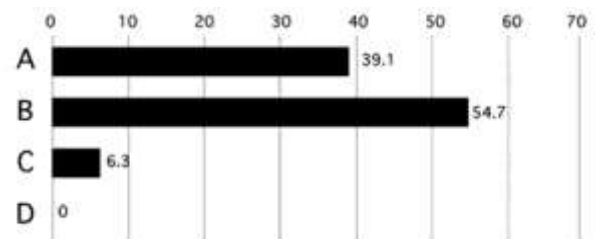
29. 職員や子どもたちが当事者意識を持ち、個々の役割を理解したうえで訓練等に取り組めたか。



30. 訓練等が個々の実践力、意識の向上につながったか。



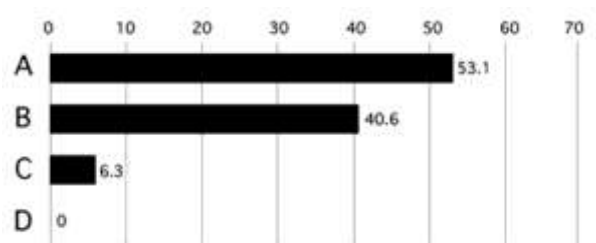
31. 人権意識の向上につながる研修を行えたか。



32. 子どもへの指導場面や職員間の会話等において、人権を意識した言動が日常的に行われているか。



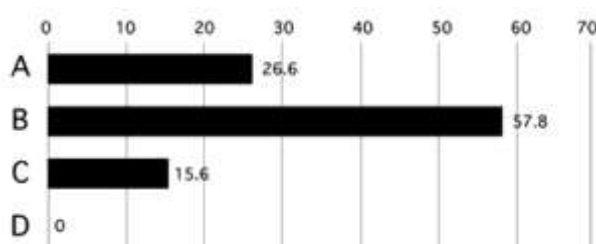
33. 学校いじめ防止基本方針に基づき、学校生活アンケート等により、いじめの未然防止に努めることができたか。



34. 相手校や各学部・学年間で目的を共有し、多様な在り方を認め合う相互理解の推進が図られたか。



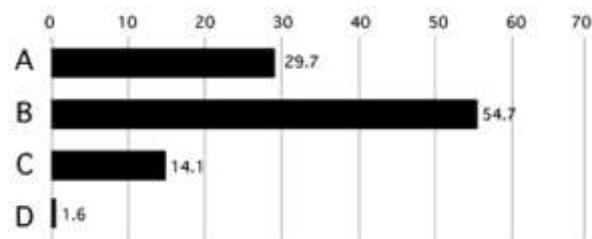
35. 十分な打合せのもと情報を共有し、計画的・継続的に実施できたか。



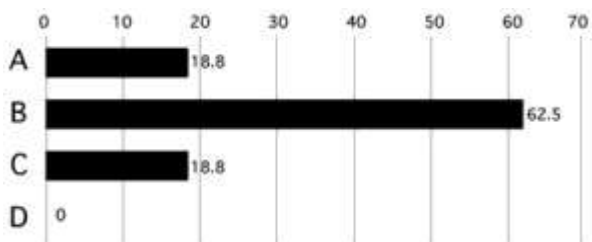
➡全職員に対して各学部の報告会等を行い、周知徹底を図る。

学部の中心議題のうち、校務部伝達の会を工夫する。
校務部会や学年会での進路関係行事の事前打ち合わせでは、前年度の改善点を丁寧に共有する。

36. 各学部・学年の教育活動をキャリア教育の視点でとらえなおし、系統的な教育計画の立案に反映できたか。



37. キャリア教育について保護者に十分説明し、理解と協力が得られたか。



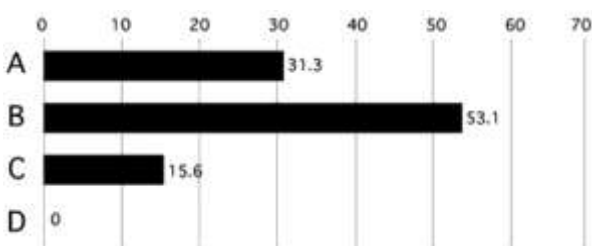
➡入学時に学部だよりや進路だよりで保護者向けに発信する。

キャリア教育について教員の理解をより深められるように会議内容を工夫する。

進路関連の体験活動では目的を明確にし、「キャリア教育全体計画」に基づいた「育てたい力」を意識する。

保護者向けに作成する「進路のしおり」をもとに、進路指導の流れや手続き、進路関連行事の目的等について教職員が共通理解をしたうえで保護者に丁寧に説明をする。

38. キャリア教育の視点を授業や評価に取り入れることができたか。



➡年度初めに「日常生活の指導」の中で取り組むキャリア教育について共通理解をする。

キャリア教育について教員の理解をより深められるように会議内容を工夫する。

進路関連の体験活動では目的を明確にし、キャリア教育全体計画に基づいた「育てたい力」を意識する。

保護者向けに作成する「進路のしおり」をもとに、進路指導の流れや手続き、進路関連行事の目的等について教職員が共通理解をしたうえで保護者に丁寧に説明をする。

39. 食に関する指導の全体計画を踏まえて、ねらいや目標を明確にし、計画的に指導することができたか。



➡全体計画と年間指導計画を合わせて提示し、各学部学年で学期ごとに指導計画の見直しを行う。

具体的な体験（調理室見学など）栄養教諭と連携する。

40. 授業や行事、日常生活等、学校生活におけるさまざまな場面で、食育に取り組むことができたか。

